

令和4年度 学 校 経 営 計 画

1 学校教育目標

教育基本法にのっとり、全人的教養と社会性の啓培に努めるとともに、「質実剛健」「自主自律」の精神を育成する。

＜育てる生徒像＞

志高く、自ら学び、考え、行動する、聡く心豊かでたくましい生徒
ふるさとに誇りと愛着を持つグローバル・リーダーとして、将来幅広く活躍する生徒

教育方針

「質実剛健」「自主自律」の精神のもと、全人教育を基盤とし、生徒の進路実現を着実に図るとともに、次代を担うリーダーとしての素養の伸長に努める。

- (1) 真理を愛し、幅広い知識と教養を身に付け、知性に根ざす豊かな人間性を培う。
- (2) 主体性を持ち、他者と協働する態度や、自他敬愛の念を育てる。
- (3) 心身の調和のとれた成長を図るとともに、よりよい社会生活を築こうとする態度を育てる。
- (4) 個性を伸ばし、自己の確立に努めるとともに、高い志を持ち、進路実現や目標の達成に粘り強く取り組む姿勢を養う。
- (5) ふるさとに誇りと愛着を持ち、グローバルな視野で社会の発展に積極的に寄与するリーダーとしての資質・能力の伸長を図る。

2 学校の特徴

本校は、普通科(5学級・200名)と理数科学科・人文社会科学科(2学級・80名)を併設した全学年7学級体制である。生徒の多くは4年制国立大学への進学を希望し進路実現に向けて、学習等に取り組んでいる。

急速なグローバル化やAI・IoT等の技術革新が進展する新たな時代に対応し多方面で活躍できる人材が求められるなか、社会の発展に積極的に寄与するリーダーとしての資質や能力を高め、未来を切りひらく人間力の育成を目指している。課題研究等の探究的活動を積極的に取り入れ、思考力、判断力、表現力の伸長を図るとともに、これらの活動や学校行事、部活動、地域貢献活動等をとおして、主体性を持ち、他者と協働して学ぶ態度の育成とバランスのとれた全人教育を行う。

3 学校の現状と課題

社会の急速な変化に伴い、学校を取り巻く環境も大きく変化している。「質実剛健」「自主自律」の精神を培い、高い志を持ち、困難な課題にも粘り強く挑戦し、自らの進路を切り拓く心豊かでたくましい生徒を育成する必要がある。そのため、以下6つの観点を重点事項とし、一層の教育充実に努めていきたいと考えている。

- (1)(授業改善の推進) 生徒の優れた能力を引き出すため、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善と指導方法の研究に努める。
- (2)(自学自習の定着) 授業と自学自習のサイクルで、効果的に学力の向上を図る。
- (3)(進路意識の向上) 3年間を見通した計画的・継続的なキャリア教育、進路学習等を行う。
- (4)(多様な支援の充実) 校外の教育力を有効に活用し、個々の実態に応じた支援に努める。
- (5)(自主活動の充実) 豊かな人間性を培う生徒の主体的な取り組みを促し、支援する。
- (6)(グローバル・リーダーの育成) 社会の発展に寄与するリーダーとしての資質の伸張を図る。

4 学校教育計画

項 目		目標及び計画	
1	学 習 活 動	目 標	学校教育目標・教育方針に即した全人教育をめざし、各教科・科目において、生徒自らが問題意識を持って探究し解決する、主体的な学習態度を育成する。
		計 画	重点1 ① ② ③ ④ ① 高校の学習への円滑な移行と自主的学習習慣の早期確立を促し、主体的な学習活動の実現を支援する。生活記録を利用した面談指導などをおとして、生徒の生活実態の把握に努める。 ② 生徒の学習の進め方に即し、3年間を見通した教科ごとのシラバスを作成する。教科部会等をおとして指導者が互いに連携し、効果的な指導法の検討を行い、改善を図る。また、生徒課題の内容や量、時期について教科間のバランスを調整する。 ③ 教員の授業におけるタブレット利用では、<u>先進校や研究指定校の活用例などをあげて、より活用しやすいように働きかける</u>。また、生徒のタブレット利用については、<u>学習活動やHR活動あるいは連絡ツールとしての活用</u>について研究する。
2	進 路 支 援	目 標	自分の将来の生き方あり方を早期に確立し、その実現に向け生徒個人のもつ適性と能力を十分に伸ばすよう指導する。さらに、コース登録など進路を選択する様々な場面で、適切な情報を提供し、考える機会を持たせることにより自己実現を支援する。
		計 画	重点2 ① ② ① 3年間を見通したキャリア教育に基づき、各時期に応じた進路講演会や職業理解講座等を開催し、自己像の確立を支援する。特に、<u>国内外で活躍する社会人の講演や同窓生の体験から学ぶ機会を設け、社会に貢献する自己を想像させ、学ぶ意欲を喚起させる</u>。 ② 「総合的な探究の時間」における進路研究、大学学部学科紹介の実施、<u>大学見学やオープンキャンパスへの参加、面談指導等</u>を通して進路先の選択を支援する。 ③ <u>模試や入試結果等の情報収集・分析</u>を教員間で共有し、生徒への面接等に生かす。また<u>入試問題等を研究・分析</u>し、生徒の進路実現への確かな学力を養成する。
3	学 校 生 活	目 標	社会生活を営む上で重要な、規範意識を高めるとともに、事故やトラブルを未然に回避し、安全に生活する力を育成する。さらに、様々な特性や課題を持つ生徒への支援や新型コロナウイルス感染症対策等、生徒が健やかに安心して学校生活を送ることができる環境作りに取り組む。
		計 画	重点3 ① ② ③ ① <u>新入生説明会やPTA研修会等で保護者対象の講話</u>や新入生対象のエンカウンターを実施し、学校への不適応等の予防的援助を行う。 ② <u>スクールカウンセリング、事例研修会の実施</u>により、個々に応じた適切な支援を行う。 ③ <u>校門指導</u>や集会等により服装や挨拶への意識を高める。校則や社会規範の遵守を促す指導を進める。 ④ 交通事故の予防や交通マナーの改善、危機管理能力の育成に努める。SNSに潜む危険性や利用マナーについての啓発を進める。 ⑤ 生徒保健委員会で「保健だより」を発行し、健康保持に関する啓発活動を行う。 ⑥ <u>コロナウイルス感染防止に対する学校での新しい生活様式について、HR等で意識付けし、実践する</u>。

項 目		目標・及び計画	
4	特 別 活 動 重点4 ① ② ③	目 標	豊かな人間性と情操の育成及び自主自律の精神、自他敬愛の念と協調的な生活態度の育成を図る。また、読書活動の推進と生徒図書委員会の活性化を図る。
		計 画	①部活動への積極的な参加を通して、活動の充実感や目標の達成感を味わわせるとともに、学年の枠を越えた良好な人間関係の確立を図る。 ②ホームルーム活動を通して、教師と生徒、生徒相互の良好な人間関係を築く。 ③生徒会活動への積極的な参加を促し、生徒会が関わる学校行事を計画的に運営する能力を高める。また、奉仕精神を涵養するため、ボランティア活動への参加を呼びかける。 ④推薦図書の掲示などの広報活動を積極的に行うとともに、「特設コーナー」の定期的な設置により、生徒の読書への意欲を高める。 ⑤生徒図書委員会による広報活動を活発化し、読書への意欲を高め、貸出冊数の増加を図る。 ⑥文化講座や読書会の開催、教科・学年と連携した図書館の活用により、自主的に学ぶ態度を育成するとともに、総合的な知性の啓蒙に努める。
5	そ の 他 重点5 ① ②	目 標	ふるさとに誇りと愛着を持ったグローバル・リーダーの育成に努める。保護者や同窓会との連携を図る。
		計 画	①人文社会科学科及び理数科学科においては、課題研究等の探究活動をとおして協働性を養い、リーダーとしての資質を高めるよう一層の充実を図る。普通科においては、総合的な探究の時間で教科横断的に思考力を育てる。 ②大学等との連絡を密にし、また学年等と連携を図りながら、探究活動等が進路実現等につながる実効性あるものになるよう、内容の改善・充実を図る。 ③海外大学との研修等を通して、自己発信力などグローバル・リーダーとしての能力を身につけさせる。 ④PTAにより、同窓会報、ホームページ、学校紹介の掲載内容を工夫し、幅広く本校教育活動の紹介に努める。 ⑤研修会等について、保護者の意見も反映し、様々な工夫を重ねていく。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和4年度 高岡高校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	自律的で主体的な学習者を育むための学習指導	
現 状	・これまで本校の生徒は、授業を大切にし、与えられた課題にきちんと取り組む姿勢が見られた。しかし近年、学習習慣が十分に身につけていない生徒が増えているという声がかかる。また、積極的に質問を行い、納得いくまで理解しようとする姿勢の生徒が減っているとの声もある。変化の激しいと予想されるこれからの社会で活躍するためには、自律的、主体性に、他と協働して物事に取り組む姿勢がますます重要になる。一方で教員側も、変化する現在の生徒に適合した指導方法を研究することが求められている。令和3年度より教員・生徒に一人1台タブレットが貸与され、学習活動に有効に活用されている。また、令和4年度からは無線LAN設置エリアも増え、さらにICT機器を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びを担保する指導方法を、研究実施することが大切である。	
達成目標	①②学習課題への取組	③④情報機器の有効活用
	①計画的な学習と振り返りを習慣としている生徒 80%以上 ②疑問点は友人や先生に質問して理解をした生徒 80%以上	③各教員の授業におけるタブレットの恒常的な活用 70%以上 ④生徒の学習や学校生活におけるタブレット有効活用率 80%以上
方 策	・学習時間調査を行い、学習意識を高めさせるとともに、生徒の取り組み状況を分析する。その結果をふまえ、担任・教科担当者等による面接指導をすすめる、学習意欲を喚起させる。 ・互見授業を2学期に行う。総合的な探究の時間や課題研究、ICTを活用する授業などの実施時間及び使用教室を全教員に案内し参加率を上げる。 ・「互見授業」実施後、各教員が得られた「効果的な授業」のポイント、学ぶ意義や学び方に関する指導上の工夫について、意見の集約と共有化を行い指導に活用する。 ・観点別学習状況の評価を円滑に実施するために校内研修を行い、学校全体として組織的かつ計画的な取り組みを進めていく。 ・教員の授業におけるタブレット利用では、活用例などをあげて、より活用しやすいように働きかける。 ・生徒のタブレット利用については、共有フォルダの使用を活用し、学習活動やHR活動あるいは連絡ツールとして恒常的に扱えるよう指導する。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	進路意識の高揚と進路希望の実現	
重点課題	高い志を持ち、第一志望校を最後まで諦めさせない進路指導の実現	
現 状	・本校生徒には、自己の能力や可能性を深く自覚しないまま、現段階での学力で入学できそうな大学を探してしまう傾向も見受けられる。生徒各個の適正と能力を伸ばす指導に取り組み、高い志と明確な目標を抱いて実社会におけるリーダーとなるよう働きかけていきたい。「高岡高校で学んで良かった」と生徒が実感できるような進路支援に全教職員で取り組んでいく必要がある。	
達成目標	①志望校合格率 (出願時の志望校合格者の割合)	②進路指導に対する満足度 (卒業時：3学年対象)
	①合格率 58%以上	②満足度 70%以上
方 策	・学年集会や個人面談、外部講師による進路講話、また卒業生による職業理解講座等を通して、「大学の向こうにある社会」を意識させつつ将来の進路と高校の学習内容の関連を考察させる。 ・高い志望を貫いた先輩の体験談や、卒業生による大学学部学科紹介を通して、学習に対する姿勢や、大学での学問を深く知るための動機付けとする。 ・学習時間調査を通して自身の学習姿勢を振り返り、評価および改善を行い、取り組みを進化させる。 ・既卒生に対しても積極的かつ継続的に進路支援を行う。 ・校内模試や外部模試、前年度入試結果等の情報収集・分析を教員間で共有する。 ・大学入試問題研究や進路判定会議等の機会を活かし、よりよい進路支援について個々および集団で検討し、教科指導や進路指導につなげる。 ・学習時間調査結果を分析し、生徒の学習への取り組みを把握し、学力の伸長につながる助言指導等を行う。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	学校生活	
重点課題	・規範意識の高揚と安全意識の育成 ・学校生活への円滑な適応と心身の健康保持 ・学校環境の整備・充実と基本的な感染症対策の徹底	
現 状	・社会生活を営む上で重要な、基本的なマナー・規範意識を身につけずに来ている生徒が増えている。規範意識を高めることはもちろん、事故やトラブルを未然に回避し、安全に生活する力を高めていく取り組みが重要である。情報通信機器の利用に当たっての危険性についても指導するとともに他者を思いやる心を育て、いじめの防止につなげる。 ・心身の不調を訴える生徒や、学校不適応傾向を示す生徒が増加傾向にある。その実態と主たる要因を把握し、時期を逸することなく適切な支援を行うとともに、教育相談を保護者・全職員で行うという意識を高め、問題発生の予防を図っていく必要がある。 ・健康な生活を意識する態度を養うとともに、新型コロナウイルス感染症予防のために、適切な環境の保持および手洗い・咳エチケットの励行など基本的な感染症対策の徹底を図る必要がある。	
達成目標	①生徒の実態把握を目的とした声かけ	②心身の不調を訴える生徒への適切な対応と職員等の意識の向上 ③感染症に対する生徒への働きかけ
	①登校時の校門指導週間 年6回	②カウンセリング等 年30回以上 教職員等対象研修会 年2回以上 ③HRにおける啓蒙活動 年2回以上
方 策	・登校時の挨拶・服装・交通安全指導により、規範遵守の自覚を促す。 ・街頭での交通マナー遵守の指導や1年生対象に交通安全教室を実施する。 ・「情報モラル・セキュリティに係る講演」や面接・集会での注意喚起により、トラブルの未然防止に努める。 ・被害状況調査を実施し、生徒の現状を正しく把握する。	・生徒、特に心身不調の生徒の理解に努め、スクールカウンセラーや特別支援巡回指導員と教師間、また家庭、関係機関との連携を深め、個々に応じた適切な支援を行う。 ・教員研修会等により、生徒や保護者との良好な関わり方を学ぶことで、生徒に寄り添いながら信頼関係を構築していく姿勢を醸成する。 ・コロナウイルス感染防止に関する学校での新しい生活様式について、HR等で意識付けし、実践する。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	特別活動	
重点課題	・学習と部活動の両立、学校行事の充実、ボランティア活動 ・読書活動の推進と生徒図書委員会活動の充実	
現 状	・概ね部活動は活発に行われており、上位大会に出場して活躍する生徒がいる一方で、活動実態の少ない生徒も見受けられる。また、学習を理由に途中退部する生徒も増えてきており、両立した活動が難しくなっている様子が見られる。 ・体育大会、文化祭、球技大会などの学校行事は、クラス内の交流や団結力を高める良い機会になっている。しかしながらコロナ禍のため、種目の変更や、日程の短縮、やり方の工夫をしながら運営を行っている。 ・ボランティア活動としては、学校周辺の清掃奉仕活動や富山マラソン運営協力等に多くの生徒が参加している。 ・読書への意欲は高いが、学習や部活動などのために時間の制約を受けがちであり、読書量、来館者ともに生徒による格差が大きい。日常的に読書に親しむ習慣を育むために、普段から図書館へ来館するよう、より一層、教科との連携や蔵書の充実、推薦図書の拡充が必要である。 ・図書館の利用者を増やすため、生徒図書委員会の活動を活発化し、読書以外の面においても図書館に対する関心を高めたい。	
達成目標	①部活動・学校行事に対する充実度や結果に対する満足度の向上	②図書貸出冊数の増加 ③ホームルームでの図書館利用
	①充実度や結果に対する満足度 70%以上 ①ボランティア活動への参加者のべ900名程度	②図書貸出冊数 3,000冊以上 ③ホームルームでの図書館利用 年6回以上
方 策	・部活動の活動計画を作成し、大会や発表などの目標に向けた計画的で質の高い活動を目指す。 ・適切な休養日を設定し、密度の高い効率的な練習ができるよう指導する。 ・学校行事では感染防止対策を講じ、会場や日程を見直す一方で内容をより充実させることができるよう工夫する。 ・アンケートを実施し、充実度や満足度を確認し指導に役立てる。 ・富山マラソンのボランティア以外にも各種活動に積極的に参加する。	・文化講座と読書会を、合計3回開催し、図書館の利用機会を増やす。また、その企画運営に図書委員を積極的に関わらせるとともに、学級文庫を管理させて、クラスの読書活動の推進役であるという自覚を促す。 ・ホームルーム活動での図書館の利用方法を提案し、図書委員を中心とした図書館でのホームルーム活動を推奨する。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	その他	
重点課題	・グローバル・リーダー育成のためのプログラム企画 ・保護者や同窓会との連携	
現 状	・グローバル・リーダーの育成のため、県内の大学や企業・外部機関等と連携を図る必要がある。また、探究活動の実践と学力向上や進路実現につなげるとともに、普通科における「総合的な探究の時間」のあり方を検討し実践する必要がある。 ・本校に対する保護者や同窓会、地域の期待は大きい。PTA総会や保護者対象の各種研修会への参加率は高い反面、保護者からの要望にも応える必要がある。また、本校教育活動の広報を一層推進する必要がある。	
達成目標	①課題研究や探究活動における、大学や企業・外部機関との円滑な連携	②学年研修会等の出席率向上
	①大学との連携 年3回以上 企業・外部機関との連携 年4回以上	②学年研修会等の出席率 70%以上
方 策	・大学等との連絡を密にし、また学年等と連携を図りながら、探究活動等が進路実現等につながる実効性あるものになるよう、内容の改善・充実を図る。 ・海外大学と連携した研修等を通して自己発信力などの能力を身につけさせる。	・保護者対象の研修会等について、保護者の意見も反映し、工夫を重ねていく。 ・PTAだより等の広報パンフレットの掲載内容を工夫し、幅広く本校教育活動の紹介に努める。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)